

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年10月31日現在

## 今月の重点活動

### ■中山間地の集落営農法人化 **設立総会を開催**

10月9日、山県市青波コミュニティセンターにおいて、「農事組合法人あおなみ」の設立総会が開催され、事業目論見に関すること、定款・規約、役員選任、役員報酬に関することなどの議案が上程され、すべて承認された。

農地中間管理事業重点推進モデル地区として、山県市、JAぎふ、農林事務所が中心となり、岐阜県農業会議（経営アドバイザー、スペシャリスト）や県農業経営課（農業革新支援センター）の協力を得て、法人化設立に向けた支援を行ってきた。

農業普及課では、今後の法人経営体の営農確立が重要であることから、事業活動支援を続けていく予定である。（地域支援第三係・小椋正大）



【閉会後の集合記念撮影】

## 活力ある新産地づくり

### ■アスパラガス **第3回アスパラ塾を開催**

10月7日、JAぎふ正木支店において、第3回アスパラ塾が開催され、JAぎふの県派遣職員が講師となり、農薬の安全使用やアスパラガスで問題となる病害虫とその対策などについて講義を行った。

塾生から、農薬の剤型や展着剤についての質問などがあり、熱心さが伝わる塾となり、次回の塾では、現地ほ場を巡回し、次年度に向けた管理などについて学ぶこととしている。

農業普及課では、今後も塾開催を支援し、新規栽培者の確保などを進めていく予定である。（園芸産地支援第一係・松浦香絵）



【アスパラ塾の様子】

### ■ブロッコリー **育苗反省会を開催**

JAぎふでは、ブロッコリーの委託苗事業に取り組んでおり、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会員の8割が委託苗を購入している。平成28年産は、育苗期間中高温が続き、また夕立ちに見舞われるなど夜間の湿度が高く、栽培管理に苦勞する年となった。

10月18日に、苗の委託管理者との反省会を開催し、農業普及課からは、今年度の課題について提示し、理想とする苗の姿、管理技術、資材、播種機のメンテナンスについて、参加者全員で検討した。今後は、検討結果を同協議会と共有し、育苗体制改善を図る予定である。（地域支援第一係・稲葉千佳）

## 多様な担い手づくり

### ■いちご **就農支援会議を開催**

10月19日、JA全農岐阜いちご新規就農者研修所において、岐阜市、JA全農岐阜、JAぎふ、農業普及課の担当者と研修生3名が出席し、就農支援会議を開催した。

最初に、JAぎふ、JA全農岐阜の担当者から、研修生の農地確保に目途が付いたことの説明があり、現在進めているハウス等の仕様や整備計画などの状況報告があった。次に、農業普及課と岐阜市から、就農計画や収支計画の作成方法や事務手続きなどの説明を行った。

研修生からは、補助事業や制度資金の活用など具体的な事項について、多くの質問が出され、今後就農に向けて行うべき事項の確認を行っていた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、研修生が円滑に就農できるよう支援を続けていく予定である。（園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵）



【就農支援会議の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 「根尾米」食味品質向上検討会を開催

J Aぎふ根尾支店において、特別栽培米コシヒカリの地域ブランド「根尾米」の食味、品質向上に向けた検討会を、10月17日に、J Aぎふと農業普及課で、24日には、根尾米を生産する根尾米研究会を交えて行った。

検討の結果、生産が拡大される動きに対応した販売戦略を構築するため、更なる食味向上に向けた実証ほを設置することとなった。

今後は、根尾米の食味と品質の高さを外部にPRできるような活動を進めていく予定である。  
(地域支援第三係・岡田隆史)



【検討会の様子】

### ■いちご 栽培講習会を開催

本県地域いちご部会は、10月13日、J Aぎふ糸貫支店において栽培講習会を開催し、生産者45名、J Aぎふ担当者、農薬メーカーなどの担当者が出席した。

農業普及課からは、定植後のいちご栽培管理について、特に第1腋果房の花芽分化に影響を与えないマルチ、ビニール被覆のタイミングや、摘蕾・摘果、天敵導入前のハダニ類防除の徹底などの指導を行った。また、ぎふクリーン農業で農薬成分回数にカウントされない農薬についても情報提供を行った。

生産者からは、農薬成分回数やカウントされない農薬について質問が多く出され、ぎふクリーン農業実践に向けた関心の高さを伺うことができた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、単収及び品質の向上に向けた技術指導を継続していく予定である。  
(園芸産地支援第一係・小島康平)



【栽培講習会の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■羽島市内小学生 稲刈り体験活動を支援

10月14日、20日、羽島市内の小学校3校の5年生が、6月に田植えし、立派に実ったほ場で、稲刈り体験活動を行った。

当日は、生産者、J Aぎふ及び羽島市の担当者も参加し、農業普及課から、鎌を使った稲刈り方法を説明し、児童の稲刈り補助を行った。最初は戸惑いながら作業していた児童も、慣れるにつれて、決められた範囲を超えて稲刈りを行っていた。

農業普及課では、今後も食農教育の一環として、田植えや稲刈り体験活動を支援していく予定である。

(地域支援第二係・山田隆史)



【稲刈り体験の様子】

### ■えだまめ 食農教育事業成果発表会が開催される

10月7日、岐阜市立女子短期大学において、えだまめ農業体験の成果発表会が開催され、同大学ピーチクラブの学生13名、えだまめ農業体験に協力頂いたJ Aぎふえだまめ部会の生産者など関係者7名も出席した。

えだまめの定植や収穫体験のスタッフを務めた学生から、気づいたことなどについて報告があり、「収穫体験では、品種によって味や香りが違うことを知り驚いた。」「試食した人からの美味しいとの感想がすごく嬉しく、農家の人はもっと嬉しいと思う。」「えだまめが岐阜の特産であることを知り、岐阜に興味を湧いた。」など発言があった。

農業普及課では、今後も岐阜えだまめに対する理解を深めるため、出前授業、収穫体験や消費宣伝などの活動を支援する予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【成果発表会の様子】